

# はじめに

四季が織り成す美しい自然の中で、日本人は豊かな感性を育んできました。そのため、日本語には、想像力をかき立てる美しい言葉や表現が数多く存在しています。しかし、近年では、若い人たちを中心に、その美しい日本語が失われ、言葉の乱れが目につくようになっていきます。「すごい」「かわいい」「超」などという、単純な言い方で全てを表現している若者を見たこともあるかと思います。これは、現代人の「表現力」や「語彙力(ボキャブラリー)」の欠如を意味していると言えるのではないのでしょうか？

そこで、本講座では、豊かな「表現力」を身につけるために必要な、「INPUT(受け取り、考える力)」と、「OUTPUT(言葉を使い、いい表す力)」の力を養っていきます。第1章で全体像を学び、第2章では、物事を的確にとらえ、それを正しく再現する「事実を伝える力」。第3章では、主観的な考え方を、客観的な考え方に換える「気持ちを表す力」。第4章では、さまざまな角度から物事を見極め、立体的にとらえる「言葉を言い換える力」という流れで、それぞれの観点から「表現力」を学びます。さらに、確実なスキルアップを目指すために、各章ごとに、その章で学んだことを、楽しみながら行える実践形式のトレーニングがついています。積極的に言葉を使い、感性や語彙力をレベルアップさせましょう。

豊かな表現をするためには、物事を正しく観察し、それを考えることで理解するというプロセスが大切です。本講座では、そうした「考える力」の向上までを含めて、さまざまな角度から学んでいきます。

# 目次

## Contents

はじめに	3
使い方	本講座の学習の仕方 6

### 第1章

## 「あなたの言葉、足りていますか？」

1	言葉を忘れてしまった日本人	10
2	ボキャブラリーはどうして必要なんだろう	12
3	言葉を覚えるだけじゃ表現の幅は広がらない	14
4	感じ取る力と考える力が言葉の表現力を支えてくれる	16
5	ボキャブラリーを増やせば想いが伝わる	18
6	3つの力が感性とボキャブラリーを育てる	20

### COLUMN

#### 表現力豊かな文章を書くためのコツ その1

結論を先に書くのか？ 最後に結論を書くのか？	22
------------------------	----

### 第2章

## 「①事実を伝える力…ありのままを伝える表現力を身につけよう」

1	さよなら勘違い、すれ違いの関係は終わりにしよう	24
2	まずは正しく感じ取り、頭の中で理解しよう	26
3	ありのままは客観的な言葉で伝えられる	28
4	<b>Training1</b> 感じたことをそのまま言葉にしよう	30
5	<b>Training2</b> 写真の風景を言葉だけで相手に伝えよう	32
6	<b>Training3</b> 難解な文章を子どもにわかるような文章に言い換えよう	34

### COLUMN

#### 表現力豊かな文章を書くためのコツ その2

実用文を書くときに欠かせないこと	36
------------------	----

### 第3章

## 「②気持ちを表す力…自分の気持ちを表す表現力を身につけよう」

1	これなら伝わる、私の心で燃え上がる熱い想い	38
2	自分がどう感じているかを考えてあげよう	40
3	気持ちはいろいろ、だから表す言葉もいろいろある	42

- 4 Training1 「すごい」と「かわいい」の理由を書き出そう…44
- 5 Training2 自分の気持ちをいろんな言葉にあてはめよう…46
- 6 Training3 普段は考えないようなことを考えよう ……48

**COLUMN**

**表現力豊かな文章を書くためのコツ その3**

わかりやすい実用文は、難しい言葉よりやさしい言葉で ……50

**第4章**

**「③言葉を言い換える力…言葉の引出しを作って表現の幅を広げよう」**

- 1 私は、ひと言で言い表せるような薄っぺらい人間じゃないはずだ ……52
- 2 思ったように伝えるために言葉の持ち球を増やしておく ……54
- 3 喩えや図解など、言葉以外の表現手段も使おう ……56
- 4 Training1 「すごい」「かわいい」を別の言葉で言い換えよう ……58
- 5 Training2 ワインの味をいろんな喩えで表現しよう …60
- 6 Training3 文章情報をイラストに描き表そう ……62

**COLUMN**

**表現力豊かな文章を書くためのコツ その4**

身近なものを表現することから始めよう ……64

**巻末**

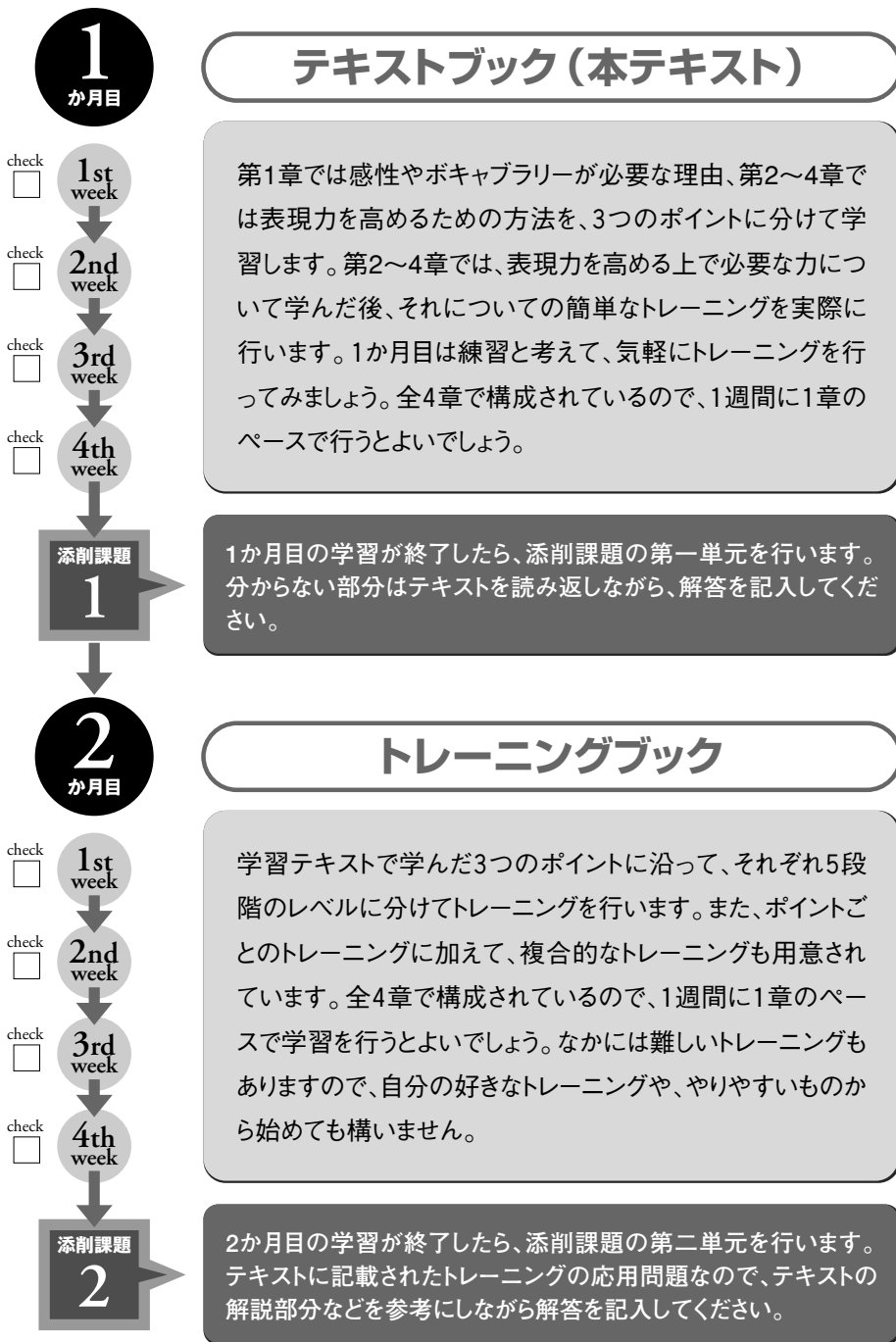
**「表現名人に学ぶボキャブラリー辞典」**

- 1 美食レポーターに学ぶ 味わいボキャブラリー ……66
- 2 ソムリエに学ぶ 喩えボキャブラリー ……67
- 3 詩人に学ぶ 耽美ボキャブラリー ……68
- 4 飲み屋のママに学ぶ ベタ褒めボキャブラリー ……69
- 5 コピーライターに学ぶ インパクト・ボキャブラリー 70
- 6 アメリカ人に学ぶ オーバー・ボキャブラリー ……71
- 7 小説家に学ぶ リアル・ボキャブラリー ……72
- 8 漫画家に学ぶ 擬音ボキャブラリー ……73
- 9 子どもに学ぶ 自由ボキャブラリー ……74
- 10 画家に学ぶ カラー・ボキャブラリー ……75
- 11 自然に学ぶ 体感ボキャブラリー ……76
- 12 恋愛に学ぶ ハートフル・ボキャブラリー ……77



# 本講座の学習の仕方

## 2か月間の学習スケジュール



# 各章の最後の、 トレーニングページについて

## 本文

トレーニングを行うにあたって、どのような考え方でこの設問に取り組みればいいのが説明されています。

## 設問

設問は、身近な題材を取り上げています。自由な発想で、楽しみながら答えを考えましょう。

## ONE POINT

解答を考えたときのヒントが書かれています。解答例や解説を読む前に、このワンポイントを読んで自分なりの答えを考えてみましょう。

## 解答例

どの設問も、人によってさまざまな解答となることでしょう。そこで、あくまでも参考にしていただくために、解答例の1つとしてあげています。解答を考える前に参考にしたたり、自分の解答と見比べてみてください。

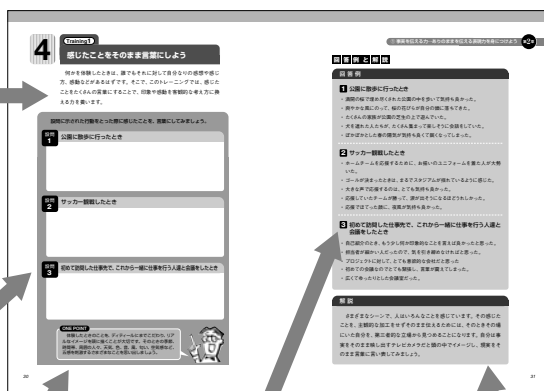
## 解説

解答例の導き出し方や、このトレーニングによってどのような力がつくのかを説明しています。設問の意図がわかりにくい場合や、解答が思い浮かばない場合などは、解答例とともに先に読んでも構いません。解答を導くための手助けとなるようなポイントが書かれています。



## トレーニングを行う際の注意点

- 書き込みスペースが小さい場合は、ノートなどに解答を記入してください。
- 答えが見えて気になる場合は、右ページ(解答例と解説)を下敷きなどで隠しながら解答してください。
- 解答が思いつかないときは、他の人も交えてトレーニングを行ってみてください。1人で行うよりも、さまざまな表現が飛び出します。
- 第2巻のトレーニングは、必ず第1巻を学習してから行ってください。





第 1 章

「あなたの言葉、足りていますか？」



# 1

## 言葉を忘れてしまった日本人

日本には春夏秋冬の美しい四季があり、その移り変わる四季が私たち日本人の心を豊かにしています。四季が織り成す美しい自然が、日本人の感性を豊かにしてくれたのです。その素晴らしい自然を情景豊かに表現することができる美しい言葉が日本語です。目で楽しみ、肌で感じながら、情景の1つひとつが心の琴線に触れることで、さまざまな表現となって溢れ出し、そこから色とりどりの言葉が生まれました。日本語は、四季を感じることでできる島国・日本という素晴らしい環境の中で豊かに育まれてきたと言えるでしょう。

今、その美しい日本語が、現代社会の中で、徐々に失われつつあることに気がついていませんか？

美しい日本語には、想像力をかき立てるさまざまな表現があります。たとえば、深みのある色合いを表現するにしても、「濃密な紺色」「奥行きがある紺色」「こっくりした紺色」など、いくつもの言葉でただの紺色ではない微妙なニュアンスを表現することができます。しかし、近年では、この日本語らしい微妙なニュアンスを使えない日本人が増えているようです。「すごい○○！」や「超○○！」という表現ばかり耳につくのは、その象徴とも言えます。他に、言葉を略したり言い換えたりする若者言葉や、業界用語と呼ばれる隠語が流行るなど、言葉が失われているだけでなく、言葉そのものが違うものになってきているのです。

もともと言葉は、自らの思いや考えを、自分以外の多くの人々に伝えるための手段として生まれました。しかし、情報を伝えるだけの手段で





しかなかった言葉は時代とともに変化します。生活圏が広がるにしたがって人が接する物事の対象が増え、相手によりわかりやすく伝えるために言葉が使われるようになりました。こうして、多くのことを伝えようとした結果、日本語らしいさまざまな表現が生まれてきたのではないのでしょうか。

たとえば「水」を表現するときに、「青く清らかな水」などと、より具体的に水の性質や状態を説明することで、ただの「水」ではないことを表すことができます。日本語はこのように、形容詞的修飾語を数多く持っており、対象に合わせて美しく表現を変えることができるのです。

しかし、現代の日本人、とりわけ若者は、このような具体的な表現を省いてしまい、ただ言葉の前に「すごい」や「超」をつけることで済ませてしまう傾向が見られます。満開の桜を眺めながら、「超きれい」のひと言で片付けてしまう。これでは、風情も情感も感じることはできません。満開の桜がどのような状態だからきれいなのかもわからず、その桜のどんなところに感動したのかも伝わらないまま、ただ「きれい」と感じたことを曖昧に強調しているだけと言えるでしょう。

さらに多様な日本語を使わなくなってきただけでなく、多くの人が外来語の単語を交えて、コミュニケーションをとるようになってきています。たとえば、この「コミュニケーション」もその1つと言えます。これを日本語で言い換えるなら、「人間同士で意思や感情、思考を伝達し合うこと。言語・文字・身振りなどを媒介として行われる情報伝達」といった意味になりますが、これをたった1つの単語で言い表しているのです。他の言語を柔軟に取り入れられるのも日本語の良いところですが、なんでもかんでも外来語に言い換えて、それを日本語で表現できないようになってはいないのでしょうか。

**POINT**

豊かな表現を持つはずの日本語から、多様な表現が消えていっている！

# 2

## ボキャブラリーはどうして必要なんだろう

プレゼンテーションなどで、自分の考えを発表する場合、たくさんの人が理解しやすくなるように、さまざまな具体例をあげながら説明していきます。これと同様に、物事や自分の気持ち、考えを相手に伝えるためには、相手に合わせてたくさんの言葉を使い分けなければいけません。よりの確かな言葉を選ぶことで、具体的で明確なイメージを伝えるのです。

では、豊富なボキャブラリーが必要となるのはどんなときで、ボキャブラリーが少なくて困るのはどんなときなのか、身近な例で考えてみましょう。

### ① 上司・取引相手に新しい企画を説明するとき

自分が考えた新しい企画を誰かに伝えるとき、当然のことですが、まだ相手には新しいことに関する情報はまったくありません。そんな状態の相手に、ただ企画内容を伝えただけでは、なかなか理解してはもらえないでしょう。理解してもらうためには、相手に伝わりやすい言葉を選びながら、少しずつ相手に新しい情報を与え、企画の意図を説明します。また、企画に至るきっかけとなった自分の想いを語ることも必要でしょう。そのためには、相手が納得し理解するために必要なボキャブラリーを、あなた自身が持っていなければならないのです。

### ② 旅行先で見た感動的な風景を他人に伝えるとき

あなたが旅行するときのことを考えてみましょう。旅先で出会った、心に響くほどの美しい風景があります。旅行後、その感動を実際に見ていない人に伝えるためにあなたならどうしますか？ ほとんどの人が、写真を撮ることで風景を切り取り、それを直接見せることで感動を伝えようとするでしょう。しかし、残念ながら写真を見せるだけでは、あなたが受けた感動を伝えることができたとは言えません。写真を見せながら、あなたの心に響いた感動をさまざまな言葉で表現することで初めて、あなたが体験した美しさを相手の心に焼き付けることがで

きます。たとえ言葉をつけ加えたとしても、それが月並みな表現であったり、限られた表現しかなかったとしたら、想いはほとんど伝わらないのです。

### 3 自分の考えや気持ちを、相手に伝えるとき

自分の考えや気持ちを、きちんと相手に伝えることは大変難しいことです。人間は一人ひとり感じ方・考え方はさまざまで、10人いれば10通りの感じ方・考え方があります。だからこそ、自分の感じ方・考え方を正確に表すためには、たくさんの言葉や表現方法が必要となります。自分の考えや気持ちを一方的にぶつけるだけの会話は、本当の意味で会話として成り立っているとは言えません。それだけではなく、間違った状態で伝わってしまう可能性も考えられます。これでは、仕事もスムーズにいかないばかりか、人間関係もこじれてしまうでしょう。

#### POINT

ボキャブラリーが少ないと、情報も正確に伝えられないし、自分の気持ちも勘違いして受け取られてしまう。



# 3

## 言葉を覚えるだけじゃ表現の幅は広がらない

たくさんの言葉を覚えることはもちろん大切ですが、それだけで表現が豊かになるというわけではありません。

たとえば言葉をたくさん知っていたとしても、正しくそしてより多くのことを感じ取る力がなければ、あるいは感じ取ったことを理解する力がなければ、結局は言葉を使う機会が得られないのです。自分が感じ取った以上のことを言葉で表現することはできません。つまり、「INPUT (受け取り、考える力)」がなければ、「OUTPUT (言葉を使い、言い表す力)」も豊かにはならないということです。

では、「INPUT (受け取り、考える力)」にはどのようなものがあるか、順にみていきましょう。

### POINT 1 正しく感じ取る

自分が五感で感じるさまざまな状況や出来事、また、そこから感じ取った感情を、まずは正しく受け止めることが大切です。たとえば、現実起きた事件について、事件の事実関係を間違っただけで受け取っていた場合、事件のことをあなたから他人に伝えようとしても、それを正しく表現することができなくなり、ちゃんと理解してもらえないでしょう。自分が感じたことを自分以外の人にわかってもらうためには、最初にあなたが正しく感じ取っていなければならないということなのです。

### POINT 2 感性を豊かにして多くのものを感じ取る

さまざまな状況や出来事、風景など、ただ見たまま、聞いたままを受け止めるのではなく、自分から積極的に情報を集めようとするので、より深くいろいろなものを感じ取ることができます。目の前の風景や出来事から感じ取れることは、1つだけではないのです。たとえば、同じ1つの風景を見た場合でも、ただ「きれいだな」と思う人もいれば、「きれいだな。これはきっと周囲の地形が特別だからだ」と、その背景まで感じ取る人もいます。1つのことからたくさんのものを感じ取れたら、それだけたくさんのものが表現できるようになります。